

「これからの成長に繋げる研修」 Fさん

私は今回のシンガポール研修が初めての海外でした。今までの私は同調圧力が強い日本の国民性をよく思えなかったことから、ずっと海外に行ってみたいという思いがありました。この研修の参加が決まり、念願の海外へ行けることがとても嬉しかったです。そんな私ですが、現地に着いてまず感じたのは日本のサービスの良さです。すぐにカルチャーショックを感じ、日本に帰りたくなりました。4日目、現在シンガポールで働いている本校卒業生のOさんのお話の中の「日本は同調圧力が強いと言われている。しかし、だからこそ良いサービスが届けられることができる。」という発言が強く印象に残っています。私が短所だと感じていた日本人の性格が、日本の良さに繋がっていたことに驚きつつも面白いなと感じました。初日にしてカルチャーショックを受け日本が恋しくなった私ですが、研修を通してシンガポールで陽気で優しい人々とのたくさんの出会いがあり、最終日にはその方々との別れが辛く帰りたくないと思うようになったほどです。それと同時に、初めに感じたカルチャーショックや4日目での気づきから、外の世界に飛び出し視点を変えることで自分のいた場所の良さに初めて気づくこともあると実感しました。これは、海外の良さを感じたいという私の留学の動機とは異なるものだからこそ、大きな学びになったと感じています。

そして、この研修中に私が身につけた力は積極さです。研修中はほとんど班で活動し、一班につき一人、現地の大学生がついてくれました。初めは自分の英語力に自信が持てず、話しかけてくても声に出すことができませんでした。しかし、「国を超え、どんな人にも自分の意見を伝えられるようになる」という自分の目標がある以上、このままではいけないと、次の日から拙い英語でも積極的に話しかけるようにしました。例えば、挙手制で発言することが多いディスカッションの際は何度も手を挙げて発表したり、寮や街の中でも積極的に話しかけたりするなどです。日本に帰ってこんなに外国の人と話し自分の英語力を試せる場面は多くないと考え、せっかくの機会を無駄にしたくないと思いました。

身についたものもある一方で、この研修中私の中で2つの課題を感じました。それは、人を惹きつけるようなプレゼンテーション力を身につけることと、議論の場で他人の意見をたくさん聞き出すことです。この研修は単なる語学研修ではなくグローバルリーダー育成研修でした。そのためチームワークやリーダーシップ、SDGsについて英語で議論しプレゼンテーションをするというプログラムがありました。プレゼンテーションを2回しましたが、私は緊張で聞き手の顔を見て話すことができませんでした。私も大学生やゲストスピーカーの方のように人を惹きつけるプレゼンができるようになるためには、まだまだ練習が足りないと感じました。そして、多くの議論を交わす中で私は自分の考えを発言することが得意だと気づきました。しかし、それだけではなく、逆に発言するのが苦手な人から上手く意見を引き出す力も、グループでより良い案を出すために必要だと感じています。

正直、今回の研修の感想を聞かれても一言目に楽しかったとは言えないほど、大変なプログラムでした。一日の終わりはいつもクタクタで、生半可な気持ちでは参加できないと思いました。ただその分、自分のことや海外での生活に対して常に新たな気づきや発見があり、日本では絶対に経験できない濃い1週間を過ごすことができるとも良かったです。帰国した頃には、ほとんど喋ったことのない人でも学年を超えた生徒達と仲が深まった気がして、この大変なプログラムと一緒に乗り越えたからこそその絆を感じました。大切な気づきや発見が沢山あったからこそ、この6日間を海外研修の経験として終わらせてしまうのではなく、むしろ今、日本に帰ってきてからがここで身につけた力を試す本番だと考えて、自分の成長に繋がりたいです。